ヨハネの手紙第一

§2　救いに関する 3 つの検証（2:3–29）〔その2〕

前回の復習

1. 旧新約聖書全体と、その中にある神の命令に注意深く・目を離さないで従い続けることの大切さ
   (1) クリスチャンは、信仰により、恵みによって救われた時点で既に神を（体験的に）知っている。
   (2) クリスチャンは、聖書の言葉から目を離さずに従っていくことで「自分は神を知っている」ということを体験的に理解していく。
   (3) この神の命令は、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」というイエスの「新しい掟」にまとめられる（ヨハ 13:34 ; 15:12）。
   (4) 神の命令とみことばに従い続けることは、イエスのように歩むことである。
2. 兄弟姉妹で互いに愛し合うことの大切さ
   (1) 神は、旧新約聖書で一貫して愛の実践を命じておられる（レビ 19:18 参照）。
   (2) この新しい時代では、愛の命令は「イエスが愛したように互いに愛せよ」という「新しい命令」として与えられた。
   (3) また、イエスやヨハネは、信者が互いに愛し合うことを特に強調している。
   (4) 集っている信者たちが互いに愛し合うことは、キリストのからだである教会の交わりの基盤である。

§2　救いに関する3つの検証（2:3–29）〔その2〕

2. 社会的検証：愛（2:7–17）

はじめに

1. 12–14 節：ヨハネはこの手紙を書いてきた（また、さらに筆を進めていく）理由は、読者たちが救われているからであるという。
   (1) ヨハネの手紙は、既に信者となっている者たちに救いの確信を与える書物であることが強調されている。
   (2) 11 節までで愛に関する教えを学んだ私たちは、自分の姿が現実からかけ離れていることに失望することもあっただろう。

(3) しかしヨハネは、それを読む私たちが既に救われているのだということを思い起こさせてくれるのである。

2. 15–17 節：「世」を愛してはならないという警告が語られている。
   (1) 信者と「世」の関係が語られている。
   (2) 信者でありながら「世」のものに対する愛着を感じている読者は、悔い改めと、「世」のものではなく神に根差した愛の実践を迫られる。
   (3) 「世」のものへの愛着を捨てた読者は、自分たちは神の内にいる者であり、「世」のものとは全く異なった存在であることを認識させられる。
3. いずれのテーマも、神の命令、すなわち愛の命令を実践していくための基盤となる。

２-２．信者の状態（2:12-14）

2:12 子どもたちよ。私があなたがたに書き送るのは、主の御名によって、あなたがたの罪が赦されたからです。
2:13 父たちよ。私があなたがたに書き送るのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があなたがたに書き送るのは、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。
2:14 小さい者たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが御父を知ったからです。父たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが強い者であり、神のみことばが、あなたがたのうちにとどまり、そして、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。

1. ヨハネは読者を以下の３つのグループに分け、それぞれに呼びかけている。
   (1) 子どもたち or 小さい者たち
   (2) 父たち
   (3) 若い者たち
2. ヨハネが読者を実際の年齢で分けて呼びかけている可能性はある。しかし、ほぼ確実に言えるのは、３つのグループはそれぞれ霊的成熟度が異なっている、ということである。
   (1) 子どもたち：救われたばかりの人たち、霊的幼子たちのこと
   (2) 父たち：信仰体験が長く、霊的に成熟した人たち
   (3) 若い者たち：霊的成長の途上にいる人たち[1]
3. 子どもたち or 小さい者たち

[1] 2. (1)〜(3)における各グループに関する説明は、以下からの引用である。中川健一『ヨハネの手紙 第一「救いの確信を得る喜び」』2016 年聖書フォーラムキャンプ配布資料（ハーベスト・タイム・ミニストリーズ、2016 年）9 頁

(1) どちらも文字通りの「子ども」を指している。

① 子どもたち *teknia*：子どもと親の間にある連帯感を強調している[2]。

② 小さい者たち *paidia*：親の養育化にある子どもの小ささを強調している[3]。

③ どちらもヨハネから読者一般への呼びかけに使われているが（2:1、18）、ここではある特定のグループ（霊的幼子たち）を指すと考えた方が良いだろう。

④ 彼らは神から生まれた「子どもたち」である（3:2、9）。

(2) 彼らについて、「罪が赦された」ことと「御父を知った」ことが言われている。

(3) これはクリスチャンの救いの原体験である。

① 彼らは悔い改め（i.e., 神に向かって方向転換をし）、新しく生まれた。

② 新生したとき、「御子イエスの血潮」によって罪が赦された。

③ 彼らは新生したとき、「子としてくださる御霊」を受け、御霊によって神を「アバ、父」と呼ぶようになった。すなわち、彼らは神を「御父」として知った。

(4) この手紙は、彼らのような霊的幼子に再度救いの確信を与えるものである。

4. 父たち

(1) 文字通りの「父親」を指している。父親は、一家の代表者としての権威と威厳を持っている。

(2) 彼らについては「初めからおられる方を、知った」ことが強調されている。

(3) クリスチャンは神の御言葉に従っていくことにより、神に関する知識を深め続けていくことが既に教えられた（3 節）。

(4) 彼らは霊的に充分に成熟した者たちである。彼らは、神に関する知識を深め続けてきた。

(5) 神に関する知識で最も深いものは、神が「初めからおられた」方だということである。

詩篇 90:1-2

主よ。あなたは代々にわたって
私たちの住まいです。
山々が生まれる前から、
あなたが地と世界とを生み出す前から、
まことに、とこしえからとこしえまで
あなたは神です。

(6) 彼らが霊的幼子であったときに「アバ、父」として親しんできた神は、初めからおら

[2] ジョン・R・W・ストット『ティンデル聖書注解　ヨハネの手紙』千田俊昭訳（いのちのことば社、2007 年）108 頁
[3] 同上

れる方である。そのような永遠の神が、彼らの「アバ、父」である。この霊的「父たち」は、そこに平安を見出している。

5. 若い者たち
   (1) 青少年（youth）を指している。
   (2) 彼らについては「悪い者に打ち勝った」ことが強調されている。
   (3) 青少年は、思春期を経て、日常生活を様々な葛藤の中で過ごす。霊的な若者たちもまた、霊的幼子のときを経て、青年として日々を戦いの中で生き抜いている。
   (4) ヨハネは、そのような彼らが既に「悪い者に打ち勝った」のだと言っている。
      ① ヨハネは「悪い者たち」と言ったとき、異端の者たちを思い浮かべていたかもしれない。
      ② 異端の者たちの背後にいるのは、サタンである（3:8；II コリ 4:4）。
   (5) 霊的生活は様々な戦いを伴ったものであり、一時的には負けているかのように思えることもある。
   (6) 5:4「なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。」
      ① 信仰が与えられたことは、私たちがキリストにあって既に勝利したしるしである。
      ② 信者はキリストのからだである。そのキリストは、既に悪に勝利された。であるならば、からだである私たちも勝利することは間違いない。
      ③ 「しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」（ロマ 8:37）
   (7) 日々霊的戦いの中にある私たちは、愛の命令に関することを教えられて失望することもある。しかし、ヨハネはここで、そのような私たちが必ず勝利することを教え、励ましてくれている。

２-３．世に関する警告（2:15-17）

2:15 世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。

2:16 すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。

2:17 世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行う者は、いつまでもながらえます。

1. 「世 *kosmos*」の特徴
   (1) 新約聖書における *kosmos* は、「物質的世界の秩序や宇宙、地球とそこに住む人類全体」

を表している[4]。

(2) サタンの支配下にある（ヨハ 12:31；14:30；16:22；**I ヨハ 5:19**；**II コリ 4:4**）。

(3) しかし、神の愛の対象でもある（**ヨハ 3:16**；**I ヨハ 2:2**；4:9、14）。

2. ヨハネがここで言っている「世」とは、サタンの支配下にある世界の秩序のことである。

(1) それは、神とは相容れないものであり、神に属する信者にとっても相容れないものである（ヨハ 17:14）。

3. 世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はない。

(1) ここでの「世を愛している」には、*agapaō*が使われている。

(2) ここで言う「世を愛している」人は、意識的に世を愛することを選んでいる人のことである[5]。B. F. Westcott は、これを「神を愛さず、世を愛している」状態であると解釈している[6]。

(3) ヤコ 4:4「貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友となりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。」

4. 「肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢」は世から出たものである。

(1) 肉の欲：Robertson は「肉による欲」と言っている[7]。いわゆる肉欲もその一部だと言える。

(2) 目の欲：外側から来る誘惑である。それは情欲を抱いて他者を見ること（マタ 5:28）でもあるし、禁断の実が目に慕わしく映ったこと（創 3:6）も含まれるだろう。善くないことであるにも関わらずある物の美しさに目を奪われ、それを欲してしまうことである。

(3) 暮らし向きの自慢：新共同訳は「生活のおごり」と訳している。生活に関する様々な事柄（富、地位など）を誇ることである。パウロは「世の富を用いる者は用いすぎないようにしなさい。この世の有様は過ぎ去るからです」という実践的なアドバイスを教えている（I コリ 7:31）。

5. 「世と世の欲は滅び去り」、「神のみこころを行う者」が「いつまでもながらえ」る。

(1) 以上の 3 つの「世の欲」には、人に平安を与える力がない。

---

[4] ストット、113 頁。これについて、中川（9 頁）は「『世』とは、サタンの支配下にあるこの世のシステムや価値観のことで、その本質は神に敵対するものである」と説明している。

[5] 新約聖書で「愛する」という行為を示すために使われているギリシャ語動詞のひとつである *agapaō*は、「選択／決断による愛」を意味している（cf. James Orr, et al., eds., “Love,” *International Standard Bible Encyclopedia*, in PC Software e-Sword X[Rick Meyers, 2015]）。

[6] Brooke Foss Westcott, *The Epistles of St John: The Greek Text with Notes and Essays*, 3rd ed. (Cambirdge and London: Macmillan and Co., 1892), p. 64.

[7] A. T. Robertson, *Word Pictures of the New Testament*, in PC Software e-Sowrd X における I ヨハ 2:16 の注解を参照のこと。

(2) この地上ですら平安を与えられないものが、永遠に残ることは決してない。

(3) しかし、「神のみこころを行う者」すなわち信者には、永遠のいのちが与えられている（ヨハ 17:2-3；I ヨハ 1:2）。

(4) ここで、自分たちが今この瞬間「神のみこころを行う者」となっているかは関係ない。まことの信仰が与えられている者は、キリストのからだの一部である。キリストは永遠のお方である。であるならば、そのからだの一部が永遠ではないということは有り得ない。（しかし、彼らは「神のみこころを行う者」に変えられていくし、そのために霊的戦いの中を生きているのである。）

(5) 新共同訳は「神の御心を行う人は永遠に生き続けます」と訳している。

まとめ

- ヨハネは読者たちに救いを確信させるために、この手紙を書いている。
- ヨハネは読者たちを霊的成熟度に応じたグループに分け、それぞれに呼びかけている。
  - (1) 子どもたち＝救われたばかりの人たち : 彼らは罪赦されて新しく生まれたとき、神を御父として知った。
  - (2) 父たち＝信仰体験が長く、霊的に成熟した人たち : 彼らの神に関する知識は深められており、神が「初めからおられた」方であることをよく知っている。
  - (3) 若い者たち＝霊的成長の途上にいる人たち : 彼らは世における霊的戦いの中に置かれているが、ヨハネは彼らについて既に「悪い者に打ち勝った」ことを強調している。
- 既に救われている者は、世を愛するべきではない。
  - (1) 「世 *kosmos*」は、サタンの支配下にある世界の秩序のことである。
  - (2) 世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はない。
  - (3) 世は滅び去るが、神のみこころを行う者はいつまでもながらえる。